

わかりやすい！
島根県の埋蔵文化財情報が満載！

ドキ土器

No.67

2021.03

まいぶん

島根県の埋蔵文化財情報誌



まいぶんくん



約1300年前に敷設された石敷き
スロープ状に川側に向かって緩やかに傾斜している

姿を現した朝酌渡

あさくみやだにいせき

① 朝酌矢田Ⅱ遺跡（松江市朝酌町）

朝酌町矢田地区は、大橋川の川幅が最も狭まる北岸に位置します。奈良時代に編纂された『出雲国風土記』によると、当地域は水陸両交通が交わる要衝であったとされます。その中で登場する「朝酌渡」は、大橋川を渡るために設けられた官営の渡し場ですが、その実態は不明でした。

朝酌矢田Ⅱ遺跡では人工の石敷きが発見され、その中には奈良時代の須恵器が多量に混ざられていました。また、地盤の強化や船着き場の施設として使われた可能性がある杭列も確認できます。石敷きは調査区外にも続いており、大規模な労働力を投じたことが分かります。このことから、「朝酌渡」と関連する遺構の可能性が高く、古代の官道の渡し場としては全国初の発見です。

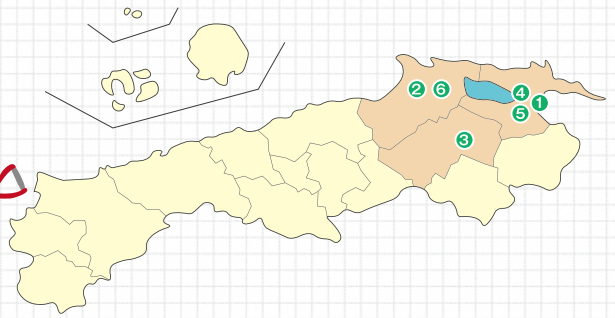
今回の調査で、古代の土木技術や交通・交流実態の一端が明らかになりました。



特集

出雲地域の古代遺跡

～『出雲国風土記』登場地の発掘調査～



4万年前～	約16000年前	紀元前5世紀～	3世紀半～	7世紀末～	710～	794～	1192～	1338～		1573～	1603～	1868～
旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	近現代
				③ ④ ② ① ⑥ ⑤								

●島根県は古代、出雲国・石見国・隠岐国の三国に分かれていました。奈良時代にまとめられた『風土記』には、特産品、地名の由来、交通、山や川などについて書かれていますが、完全なかたちで今に伝わるのは『出雲国風土記』のみです。

近年、古代遺跡調査が多く行われ、『出雲国風土記』に登場する道路、役所や寺院も調査され、貴重な成果があがっています。今回は7つの遺跡を紹介します。

■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

1200年の眠りから覚めた古代の役所跡

こしほんごういせき

② 古志本郷遺跡（出雲市古志町）

古志本郷遺跡は、斐伊川放水路建設に伴い、平成7～13年度に発掘調査が行われました。平成10・11年度に調査が実施されたF・G・H区では、古代の神門郡（出雲市西部域）の郡家（郡の役所）が確認されました。

遺跡は、神戸川により形成された標高8～10mの自然堤防上に立地し、調査では、多数の掘立柱建物や遺物を検出しました。調査区南端では、幅約6m、長さ15m以上の2棟の建物（長舎）がL字形に配置された状態で確認され、郡家の中心建物である郡庁の一部であることが分かりました。建物で囲まれた空間内では、郡内を治めるための重要な儀式や政務など執り行われていたと考えられます。



古志本郷遺跡G区（西上空から）



L字形に配置された掘立柱建物



郡庁（想像図）

まぼろしの地「大原」はここか！？

こおりがきいせき

③ 郡垣遺跡（雲南市大東町）

郡垣遺跡は平成21～23年度に雲南市教育委員会によって調査が実施されました。

遺跡は雲南市大東町仁和寺の微高台地上にあり、複数の掘立柱建物、礎石建物が調査されました。なかでもSB1とSB2は大きな掘立柱建物（長舎）であり、古志本郷遺跡と同様にL字形に配置されていたことが分かり、古代地方機関の政庁である可能性が高まりました。733年に編纂された『出雲国風土記』大原郡（雲南市加茂町、大東町、木次町付近）の条には、かつて大原に郡家があったが、現在は斐伊郷にあると記載されており、これらのことから、郡垣遺跡は、風土記記載以前の大原郡家の政庁跡と考えられます。大原郡家の問題は、まだ解決すべき点は多いとされていますが、郡垣遺跡は、古代の文献と発掘調査により研究できるという意味でも興味深い遺跡です。（写真は雲南市教育委員会 提供）



郡垣遺跡遠景（西から）



SB1（掘立柱建物跡）検出状況



出雲国と隠岐国を結ぶ「枉北道」を発見！！

うおみづかいせき

④ 魚見塚遺跡（松江市朝酌町）

魚見塚遺跡は、松江市教育委員会によって平成28年度に調査が実施されました。大橋川北岸丘陵上に立地し、南側は朝酌矢田Ⅱ遺跡と隣接しています。調査では道路の下部構造や片側の側溝が確認されたことなどから、長さ100mあまり、幅約4.5mの直線的な古代道路があったことが判明しました。これは、出雲国府から朝酌の渡を経て、島根郡家へ至り、さらに千酌駅家を経て隠岐国へ至る『出雲国風土記』記載の枉北道と考えられ、この調査で初めて確認されました。

（写真は松江市 提供）



魚見塚遺跡空撮（北から）



道路遺構（南から）

政庁域に新たに前殿を発見

しせきいすもこくふあと

⑤ 史跡出雲国府跡（松江市大草町）

出雲国府は奈良時代から平安時代にかけて出雲国の中枢として機能しました。今年度は政庁正殿の南東から南側を発掘調査し、正殿の南側で石敷き遺構を確認したほか、石敷き遺構の下層で掘立柱建物を発見しました。柱位置が正殿や東脇殿と対応する位置にあることから前殿であると考えられます。このことから正殿前の空間は前殿廃絶後、平安時代に石敷きへと変化したことが分かりました。

このほか東脇殿周辺で土師器の甕を埋めた土坑を多数発見しました。地鎮などの祭祀が行われていたと考えられます。政庁域の建物配置や変遷を考える上で重要な成果となりました。



発見された前殿（朱塗りの柱が正殿）



土師器の甕を埋めた土坑

古代の土木技術ここにあり『出雲国風土記』記載の「正西道」

しせきこだいさんいんどう

⑥ 史跡古代山陰道（出雲市斐川町）

史跡古代山陰道は平成11～26年度に、旧斐川町教育委員会、出雲市教育委員会により調査が実施されました。遺跡は出雲平野に突き出た丘陵上に位置しています。調査によって、丘陵斜面を削った痕跡や路面を構築するための丁寧な盛土などが確認され、両側溝を備えた幅9mの古代の道路跡であることが判明しました。発掘調査以外の部分も含めると直線的な道路跡は1kmにも及び、またその工法が分かる事例としても重要な遺跡です。（写真は出雲弥生の森博物館 提供）



調査中全景（北から）

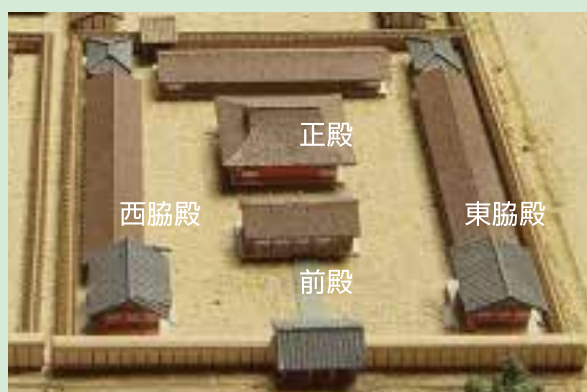


古代山陰道（西から）

復元された古代の意宇平野（模型）



平成 19 年、八雲立つ風土記の丘の中核的施設である風土記の丘展示学習館リニューアルするにあたり、島根県古代文化センターを中心に制作されました。当時の様々な分野の研究成果をもとに、古代出雲国の中心部である意宇平野周辺の復元が試みられました。現在、八雲立つ風土記の丘展示学習館で見学することができます。



出雲国府政庁

昭和の調査で正殿が確認され、令和の調査では、東脇殿、前殿が確認されました。政庁では、重要な儀式や政務が執り行われていたと考えられます。



朝酌の渡と枉北道（意宇郡側）

『出雲国風土記』によると朝酌の渡には「渡船が一隻ある。」とあり、官用の渡船が備えられていました。枉北道上に位置しており意宇郡と島根郡を結んでいます。

(写真は八雲立つ風土記の丘 提供)

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

No.67 発行：令和 3 年 3 月

編集・発行 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0631 松江市打出町 33 番地

TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025

E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp

<https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

